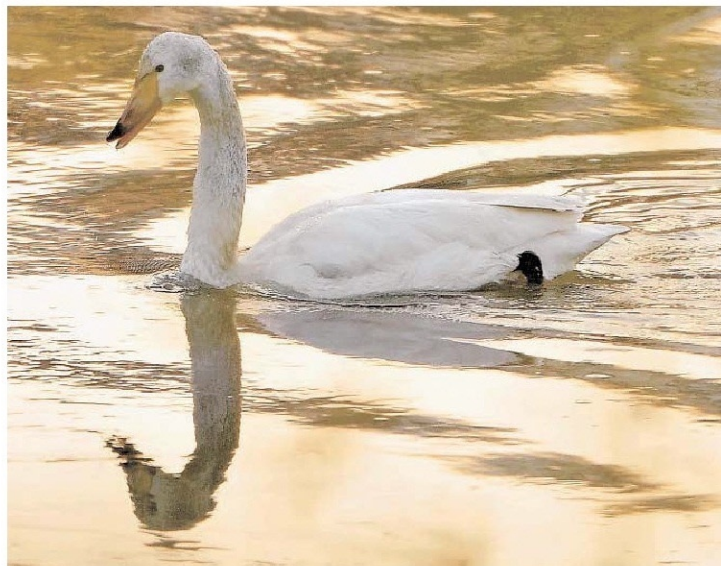




朝日で光る川面を優雅に進む
オオハクチョウ 揖斐郡大野
町、根尾川 (2月撮影)

オオハクチョウ、北へ長旅

揖斐郡大野町の根尾川で越冬していたオオハクチョウ1羽が25日までに、飛び去った。暖くなり、繁殖地のシベリア方面に向かったとみられる。

オオハクチョウは成鳥で体長140センチ、羽を広げると2メートルを超える大型の鳥で、同所には今年1月中旬に飛来。若鳥で、仲間とはぐれたとみられる。群れるカモに交じり、水草を食べながら水面で羽を休めていたが、23日から24日朝にかけて姿を消したという。

越冬終え、大野町去る

越冬場所では、昨秋から木曽川上流河川事務所発注の護岸工事が行われていた。「クラクションを鳴らしたりエンジンを吹かさないうつ気遣ってきた」と施工者「山辰組」(同町)の馬淵和三社長(62)。「来た時より少し大きく、たくましくなっていたようだ。迷わずに北に帰ってほしい」と話していた。

日本野鳥の会岐阜によると、県内では、コハクチョウほど多くないが、毎年のように観察例があるという。(堀尚人)